

2017-18 年度
国際ロータリー第 2590 地区
第 4・第 5 グループ

INTERCITY MEETING 記録

第 1 部

基調講演

「現代の貧困」
～子供達の未来に向けて～

第 2 部

アトラクション

コント コント青年団
落語 桂 歌春

会期：2018 年 3 月 3 日（土）

会場：みどりアートパーク

ホストクラブ

横浜緑ロータリークラブ

コ・ホストクラブ

横浜田園ロータリークラブ

新横浜ロータリークラブ

——— 国際ロータリー第2590地区 ———

第 4 グループガバナー補佐 相沢一夫

第 5 グループガバナー補佐 鶴岡 武

ホストクラブ会長 井藤昭宏 IM 実行委員長 武藤泰典

プログラム

登録 12:00～13:00

開会式 13:00～13:50

司会 下中英輝・日向誓子

点鐘……………第5グループガバナー補佐 鶴岡 武

開会の言葉……………実行委員長 武藤 泰典

国歌斉唱 「君が代」……………ソングリーダー 井上 幸治

ロータリーソング

「奉仕の理想」「友達になろう」

来賓・役員紹介……………第5グループガバナー補佐 鶴岡 武

歓迎の言葉……………ホストクラブ会長 井藤 昭宏

ガバナー挨拶……………第2590地区ガバナー 湯川 孝則

参加クラブ紹介……………副実行委員長 北原 弘文

来賓挨拶……………横浜市緑区長 小野崎信之

諸事お知らせ……………S.A.A. 小泉 豊

〈休憩 13:50～14:00〉

第1部 14:00～15:30

講師紹介……………第5グループガバナー補佐 鶴岡 武

基調講演「現代の貧困」～子供達の未来に向けて～

東京理科大学 特任教授 姜 尚中

質疑応答

〈休憩 15:30～15:50〉

第2部

15:50~16:50

アトラクション

コント コント青年団

落語 桂 歌春

諸事お知らせ S.A.A. 小泉 豊

〈休憩 16:50~17:10〉

閉会式

17:10~17:30

ガバナー講評 第2590地区ガバナー 湯川 孝則

閉会の言葉 第4グループガバナー補佐 相沢 一夫

点鐘 第4グループガバナー補佐 相沢 一夫

諸事お知らせ S.A.A. 小泉 豊

〈休憩 17:30~17:45〉

懇親会

17:45~18:30

司会 懇親会副委員長 秋山 光正

開会の言葉 ホストクラブパストガバナー補佐 齋藤 清紀

乾杯 パストガバナー 高良 明

閉会の言葉 副実行委員長 北原 弘文

ロータリーソング

「手に手つないで」 ソングリーダー 井上 幸治

開会式

点鐘・開会宣言

第5グループガバナー補佐 鶴岡 武

皆さん、こんにちは。ようこそ、長津田へ来ていただきましてありがとうございます。ご存じのように、長津田は横浜の中心とは言いにくいんですが、隣は東京都の町田です。それと、長津田から東京都心に田園都市線という電車がいつてるんですよ。たくさん使っていたら■てる■と思うんですが、田園都市沿線という所は、スポーツマン、芸能人、あるいは、ある程度の金持ちの人が結構多いと。全員じゃないですよ。それで、鎌倉なんか昔は結構納税者が大勢いたんですが、今は田園都市沿線の納税者が神奈川県では1位だそうですよ。

そういうことで、長津田が全部じゃないんですが、長津田を起点として東京に行かれる沿線にそういうゴールデンエリアがあるということで、いずれ長津



田も横浜の中心になっていくと思います。そういうことで、今回、長津田でやれたということはわれわれは大変うれしく思っております。

そういうことで、いよいよ本題に入らないけないんですが、国際ロータリー第2590地区、第4・第5グループのIM代表しまして、横浜緑ロータリークラブが実際これをやるということで、インターシティミーティングの、これから始動するというところで、私が点鐘をいたします。



開会の言葉

横浜緑ロータリークラブ IM 実行委員長 武藤 泰典

ただいまご紹介いただきました、IM 実行委員長の武藤でございます。本日は、ご来賓はじめ、このように多くと言いたいんですけど、あんまり多くないんですが、ロータリアンの皆さま方にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の IM に向かってはいろいろと制限がある中、皆さま方にご満足いただけるよう、われわれ横浜緑ロータリークラブのメンバー一同、ない知恵を絞りながら準備を進めてまいりました。しかしながら、われわれのクラブは人数も少なく、何分不慣れなことです。いろいろ不手際、不行き届きの点が多々あるかと思っておりますけれども、そこはロータリーの友情と寛容の精神で、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

さて、平壤オリンピックが閉幕しまして1週間ほどがたちました。オリンピックの興奮もそろそろ冷めるころかと思っております。この世界のスポーツの祭典の期間中でも貧困に苦しんでオリンピックどころではないという人々が数多くいらっしゃいます。

今回の IM では、テレビでもご活躍の東京理科大学特任教授でいらっしゃいます、姜尚中先生をお招きして、今世界でいろいろと問題になっております、現代の貧困についてご講演を賜ります。ご講演後は、



姜先生のご要望で質疑応答の時間をお取りいたしました。皆さま方からの活発なご意見、ご質問等をしていただきたいと思います。

その後のアトラクションの部では、皆さま方の硬くなった頭をほぐしていただこうと、コントと落語をご用意いたしました。今までの IM とは少し異なった企画ではございますけれども、皆さま方に大いに笑って楽しんでいただければと思います。

なお、先ほど司会者の方からは案内なかったのかな。講演とアトラクションの時間には、ロータリアン以外の一般の方々も入場されますので、ご承知おきください。今後ろの、今空いてる所に一般の方が入られますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、これより 2017-18 年度、国際ロータリー第 2590 地区、第 4・第 5 グループ、インターシティミーティングを開会いたします。最後までどうぞよろしくお願ひいたします。



歓迎の言葉

横浜緑ロータリークラブ会長
井藤 昭宏

湯川ガバナーはじめ地区役員の皆さま、ご来賓の皆さま、ロータリアンの皆さま、本日はようこそお越しいただきました。心より歓迎いたします。

今回、第4・第5グループのインターシティミーティングを開催できることを大変うれしく思っております。至らない点多々あるかと思いますが、ホストクラブとして、本日は精一杯務めさせていただきますので、皆さま、よろしく願いいたします。



来賓のご紹介

第5グループガバナー補佐

鶴岡 武



〔ご来賓及び地区役員〕

(敬称略)

横浜市緑区役所 緑区長 小野崎 信之
 神奈川県緑警察署 署長 阿部 篤
 横浜市緑消防署 署長 星川 正幸
 緑区社会福祉協議会 会長 井上 敏正
 ガバナー 湯川 孝則 横浜西
 ガバナーエレクト 金子 大 横浜中
 ガバナーノミニー 轟 淳次 川崎マリーン
 パストガバナー 藤林 豊明 横浜鶴見北
 パストガバナー 川野 正久 川崎北
 パストガバナー 露木 雄二 横浜瀬谷
 パストガバナー 大野 清一 横浜東
 パストガバナー 箕田 敏彦 横浜
 パストガバナー 高良 明 川崎西
 第1Gガバナー補佐 青木 松枝 川崎中央
 副会長 窪倉 保 横浜中
 鈴木 幹久 川崎大師

第2Gガバナー補佐 内藤 幸彦 川崎中
 第3Gガバナー補佐 奥原 章男 川崎西北
 第4Gガバナー補佐 相沢 一夫 横浜都筑
 第5Gガバナー補佐 鶴岡 武 横浜緑
 第6Gガバナー補佐 北瀬 達也 横浜
 第7Gガバナー補佐 半澤 剛 横浜南央
 第8Gガバナー補佐 三根山 貞夫 横浜保土ヶ谷
 地区幹事 倉知 恒久 横浜西
 地区副幹事 高野 伊久男 横浜西
 地区副幹事 島崎 尚己 横浜西
 地区副幹事 瀬戸 恒彦 代理出席： 横浜西
 小西 紀之
 地区副幹事 長谷川 章範 横浜西

副会長 吉田 裕一郎 横浜中

ガバナー挨拶

国際ロータリー第 2590 地区

ガバナー 湯川 孝則



本日はどうもお忙しいところご臨席たまわりまして、ありがとうございました。と同時に、まず最初に素晴らしい設営になるであろう、素晴らしいIMになるであろう設営をしていただきまして、どうもありがとうございました。ご来賓の方々も大変お忙しい中をありがとうございました。

私、本年度、ロータリーは7月1日から6月30日までですが、本年度のガバナーを仰せつかっております、湯川と申します。よろしく願い申し上げます。

先ほどオープニングで、鶴岡ガバナー補佐が田園都市線はお金持ちの所が最も多いというお話がございました。今日ちょっと早めに来ましたら、警察署署長の阿部様に来てお話をさせていただいたことによりますと、非常に空き巣が多いんですか（笑）。振り込め詐欺が多いそうです。そうかなと思ったら、やっぱりあなたのおっしゃることは正しいんだ。この辺にお住まいの方は十分お気を付けてください（笑）。

IMと申しますのは、私も57クラブがあるのを3つに分けて、みんないわゆる手作りで何かをしようじゃないかという発想で、自分のクラブだけじゃなくて、単純に57割る3はいくつかな。20クラブか、単純にね。いわゆる20クラブが力を合わせて何かを自分たちの手で、手作りで行うじゃないかっていう

企画をさせていただきました。

先週は川崎の第1、第2、第3でIMをさせていただきました。これは本当に中国大使の丹羽さんのお話もございましたけれども、その次には、自分たちの住んでいる町の大山街道、中原街道、東海道街道のそれぞれのベテランがそれぞれの、俺の家はここだ、ここだと言いながらその由来をさせていただきました。あれは川崎でないと聞けないお話かと思っております。大変手作りで頑張ってくださいました。

本日も大変いろいろ面白い企画があるようでございますが、大変期待をしておりますと同時に、16日に最後のIMがございます。いろいろと皆さんもお忙しいでしょうけれども、ご参加いただきまして、お互いにわれわれ2590地区のロータリーそのものを昇華させていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

それで、今日は私はお招きに預かったわけだな。お招きに預かりまして、ありがとうございました。



参加クラブ紹介

参加クラブ紹介

横浜緑ロータリークラブ IM 副実行委員長
北原 弘文



第4グループ

				登録会員数 (2017年12月末現在)	出席会員数
横 浜 東	ロータリークラブ	会長	岡本誠一郎	0	5
神 奈 川	ロータリークラブ	会長	石川 修一	0	5
横 浜 港 北	ロータリークラブ	会長	中村 孝雄	0	11
横 浜 鶴 見 北	ロータリークラブ	会長	佐久間 務	0	8
横 浜 鶴 見 西	ロータリークラブ	会長	鈴木 高遠	0	2
神 奈 川 東	ロータリークラブ	会長	矢野 修二	0	11
横 浜 北	ロータリークラブ	会長	嶋村 公	0	13
横 浜 都 筑	ロータリークラブ	会長	菅原 武彦	0	8
横 浜 日 吉	ロータリークラブ	会長	本間康太郎	0	11
グループ計				0	74

第5グループ

				登録会員数 (2017年12月末現在)	出席会員数
横 浜 旭	ロータリークラブ	会長	滝澤 亮	0	12
横 浜 瀬 谷	ロータリークラブ	会長	依田紀久子	0	12
横 浜 緑	ロータリークラブ	会長	井藤 昭宏	0	22
横 浜 田 園	ロータリークラブ	会長	小島 喜一	0	11
新 横 浜	ロータリークラブ	会長	高梨能理子	0	5
横 浜 あ ざ み	ロータリークラブ	会長	遠藤ふき子	0	8
グループ計				0	70
合計				0	144



来賓挨拶

横浜市緑区長 小野崎信之

皆さま、こんにちは。緑区長の小野崎信之でございます。よろしくお願いいたします。開催地の区長として、一言ごあいさつを申し上げます。今日は、ようこそ緑区、そして、この長津田においでくださいました。ありがとうございます。

そして、本日、国際ロータリー第 2590 地区、第 4・第 5 グループのインターシティミーティングがこのように盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。また、ロータリークラブの皆さまには、ほんとに日頃から社会奉仕、地域貢献にご尽力いただきますとともに、横浜市政、並びに、各区の区政にご理解、ご協力を賜りまして、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

先ほど来、皆さん、和やかに進んでんで、私、堅いあいさつになっちゃって申し訳ないんですけども、ちょっとの時間お付き合いいただきたいなというふうに思います。

地元ということですので、緑区のことを若干紹介させていただきたいと思います。実は、私、前任が港北区の副区長をやっておりましたんで、もしかすると私の顔見たことがあるかなってという方もいらっしゃるかと思います。

ということで、私、昨年 4 月に緑区にまいりました。緑区のことを紹介させていただきますと、緑区は横浜線沿線に市街地が形成されておりまして、東から鴨居、中山、長津田……、鴨居、中山、十日市場、長津田ですね、その 4 つの駅を中心に市街地が形成されておりまして、人口は約 18 万人でございます。それから、所帯数が 7 万 5,000 ということで、そんなに高齢化も進んでおりませんで、横浜の中にはもうすでに人口減少に突入してる区もあるんでございますけ



ども、まだ緑区は長津田、当地の長津田を中心にまだまだ人口が少しずつ増えてるというような町でございます。

特徴といたしましては、緑区というのは、18 区の中で緑被率、緑で覆われた率が一番高いんですね。41.6%ぐらいでしたか。都市化の波の中でも、皆さんのお力によってこの緑が守られておりまして、非常に区内には、自然のままに残された緑や公園、あるいは、農地といったものがありまして、私らはほんとにその自然と緑を非常に恵まれた土地であるということが言えるかと思います。

実は、緑区ができたのは、昭和 44 年、1969 年でありまして、皆さま、ここにいらっしゃる方も同じ所もあるかと思うんですが、同じ年の 10 月には、旭、瀬谷、港南もできたと、この 4 区が来年、50 周年を迎えるということになります。先輩の鶴見、神奈川、中、磯子、保土ヶ谷は昨年、90 周年を迎えられたということなんですが、その次は私どもの番、そして、同じくその年の 4 月ですね、2019 年の 4 月には、港北と戸塚がやはり今度は 80 周年ですか、を迎えるということで、大変メモリアルな年に 2019 年はなるんじゃないかなというふうに思ってます。

もう 2019 年といえば、皆さま、ご承知のように、ラグビーワールドカップが開催されます。横浜国際競技場でも決勝戦ほか重要な試合が開催されて、ほんとにこの北部地域が盛り上がるんじゃないかなと、私、

期待してございます。その区政、私も50周年と併せまして、皆さんが区、あるいは、横浜の魅力を再認識していただいて盛り上がり、また、誇りに思っただけならば。さらには、次世代に向けたまちづくりの契機になればいいなというふうに願ってございます。

先日、終わりましたオリンピックでも、非常に世界が、そして、この日本が熱狂いたしましたけども、2020年のオリンピックと併せまして、ほんとに皆さんの気持ちが1つになって盛り上がり、いいなというふうに願っております。

さて、本日のインターシティミーティングのテーマは「現代の貧困～子どもたちの未来に向けて～」ということでございます。このテーマを選んでいただいたこと、大変ありがたいなというふうに思っています。なぜならば、これはほんとに社会全体で取り組むべきテーマでありますし、事業者の皆さんにもご理解いただいております。ご支援いただければありがたいテーマであるからでございます。

格差社会といわれて久しく、この問題が社会問題化してからいろんな法整備も進んでまいりました。平成26年には、子どもの貧困対策の推進に関する法律という法律が施行されまして、われわれ自治体もいろんな取り組みをやっております。

いくつかご紹介しますと、小学生に対する学習、寄り添い型学習支援事業。単に学習の支援をするだけでなく、生活のいろんなマナーとかを教えて生活

全体に関して支援しようという事業とか、高校生の中退防止事業、さらには、これは民間レベルでかなりNPOなんか取り組んでいただいておりますけれども、子ども食堂なんていうのも今広がりつつあります。そういうのに対して、やはり企業のほうからCSRの一環としてご支援いただいているということも広がりつつあるのかなというふうに感じております。

貧困の連鎖を断ち切るということで、これはほんとに社会全体で取り組まないといけないんですが、やはり私もいろんなケースをお伺いしますと、単に親の収入が安定しないというだけじゃなくて、そこには障害とか病気とか、あるいは虐待の問題が絡んでたり、ほんとに複合的な状況が絡んでて難しい問題だなと、ほんとに寄り添って総合的に支援していかないとけない問題だなというふうに思います。

詳しくは、この後の姜先生の講演でお話があると思いますので、私はこれ以上申し上げませんが、いずれにしても、やはり社会全体でこの子どもの貧困の問題に取り組んでいくということでございますので、ぜひともこの会場にお越しの皆さま方にもご理解、ご支援を今後ともお願いしたいなというふうに思います。

結びに当たりまして、第2590地区ロータリークラブの皆さま方のますますのご発展、稼業の繁栄と皆さま方のご健勝を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。本日は、おめでとうございます。



第1部 基調講演



「現代の貧困」 ～子供達の未来に向けて～

東京理科大学 特任教授

姜 尚中

どうも、今日はお招きいただきありがとうございます。だいたい私、話す場所を見ますと、前期高齢、後期高齢の方が多くいんですね(笑)。私ももう後期高齢予備軍になりましたので、ロータリークラブは、埼玉でも随分お世話になりました。

私、埼玉県の小さな大学の学長をちょっと務めさせていただいたときは、もうほんとにロータリークラブの方々にお世話になって、学生のお世話、それから、学生の様々な奨学金も含めて、ほんとにロータリークラブの持っている、ガバナーを中心として、それぞれの地域社会の中の貢献度っていうのは、ほんとに私自身、敬服しておりました。

ただ、残念ながら、なかなかそのロータリークラブに若い経営者の方が少し少なくなっているんじゃないかなということは、一度に「クリ」呼ばれたときに、そのようにお聞きいたしました。

でも、ガバナーは日本の国と同時に世界にもつながっておりますから、こういうロータリークラブが世界につながって、いろんな形でいろんな貢献をしていくっていうのがとてもいいことだと思いますし、先ほど小野崎区長さんから緑区は緑が多くてって、そうだと思います。

私、どちらかという、連れ合いが埼玉でしたんで、今日も熊谷までここから行けるっていうのは夢のような。あの時代は私、上尾っていう所に住んでおまして、それで、国際基督教大学の前は明治学院大学に勤めておりましたので、保土ヶ谷まで上尾から行くという、もう2

時間半ぐらいかかりました。あのときは東京で乗り換えて横須賀線だったでしょうか。それが一応ローカル線がつながるっていうぐらいですから。

ただ、どちらかという、私、東京よりは、どちらかという、■バッチュア■と言われたり、あるいは、タモリさんにいただいたまと言われたり、そっちのほうがあり、主な自分の守備範囲でしたんで、たまーに神奈川に来るという。ですから、逆にいうと、横浜市の緑区というの、憧れの的というか、そういうイメージを持っておりました。

今は私、熊本県立劇場という所の館長をしております。これはもしかして年齢は分かってしまうと思いますが、鈴木健二というNHKの名アナウンサーがおりましたけども、彼が細川さんに請われて副館長を10年務めておりました。連れ合いの方が熊本でしたので、例の殿様である細川さんが県知事のときにそういうことがあって、今の県知事の蒲島さんっていう人が東大で同僚でしたので、こういうことをやりませんかというふうに直接ご連絡があって引き受けた次第でございます。

なぜそういうことをいいますと、やっぱり神奈川横浜は、東京を除けば、日本のやっぱり最も人口が多くて、最もインフラが整い、世界に開かれた国際都市ですね。でも、熊本辺りの県南、県北に行きますと、ほんとに小さな町、村が多くて、私自身はその両方を見ながら日本というものを改めて見直す。

ただ、いいことが1つあります。来年度の大河ドラマ

は熊本出身の方が中心になります。この方は和水町とい
いまして、福岡県と熊本県の県境、今合併して約1万人
ぐらいですが、和水っていうのは、和する、大和の和に
水と書きまして、ここでお生まれになった金栗、これは
四三という、シソウというのは四三と書きます。これは日
本で最初のマラソンランナー、日本の陸上競技に非常
に貢献された、92歳ぐらいで亡くなられたと思います。
この方を中村勘九郎さんが主人公になって、初めて熊本
は脚光を浴びると。大変な盛り上がりでございます。

その和水町に私、1週間ほど前に行きまして、今は県
立劇場の館長をしながら、熊本県内をずっと回っており
ます。それはなぜかっていうと、ご案内の通り、ここで
もありませんが、熊本大震災が起きたので。

ちょうど2年前の4月16日に、私、理科大の第1回
目の講義のときに、17日だったでしょうか。地震があって、
私も10階におりましたので、これは熊本城のすぐ横に
あるホテルキャッスルという、老舗のホテルがござい
ます。その10階におりました。

夜の9時20……、36分だったでしょうか。突然、突
き上げるような、私、一度も大砲の弾は当たったことあり
ませんけれども、大砲の弾が飛んでくるような感じで、
一瞬東京にいると間違えたもんで、寝ぼけ眼でもうこれ
東京にいると、これは東京でもう終わりかと思ったんで
すが、よくよく考えたら熊本におると。これはいかんば
いというので、10階から非常階段に下りて、なんとか。

明るく日すぐに、5時間ぐらいかかったでしょうか。熊
本からとにかく乗り継いで福岡まで行って、そして、授
業を終えて、帰ったらまたもう1回、真夜中に■あったと
いうこと■ですね。

今、手前みそですけども、劇場は子どもを中心にして、
アウトリーチといまして、被災地の子どもに、いろい
ろな方々の落語から伝統芸能から、それから、ミュージ
シャンの方に来ていただいて、そこで演奏をしてもらうと
いう、そういうようなこともいろいろやっております。

ご案内の通り、熊本県は、皆さんはたぶん不思議に
思われるかもしれませんが、日本で一番所得水準が低
い所は熊本なんです。熊本県人吉郡球磨村っていうの
があります。これ球磨川といまして、三代名流の1つ

ですね。急流の1つです。

その川沿いに球磨村、焼酎がおいしい所です。こ
こがだいたい球磨村が人口三千数百人で、1人当たりだ
いたい今の生活保護世帯クラスです。あとで話しますが、
だいたい今の日本は、14～15%ぐらいが、これはいわ
ゆる労働人口ですね、就業者のだいたい14%近くがだ
いたい186万以下じゃないでしょうか。年間所得ですね。
そのすれすれぐらいなんです。

でも、あとで話しますが、ここは、皆さん、スマホで
見ていただくと棚田がございまして。日本有数の棚田があ
ります。何よりも皆さん、シカとクマがおります。ですから、
動物性タンパクは、猟師さんがたくさんいますので、そ
れこそ潤沢にあります。それから、炭焼きをしておりました
ので、燃料には事欠きません。そして、ホテルが出て
きます。そして、なおかつ、家の前にはほとんどの人が
菜園を持っていますので、年を取ってからはこれはもう
楽園だと思います。でも、残念なことに、文化的な、産
業的な面では、ほとんどご案内の通りなんです。

日本で一番豊かな人がいる場所、これはもう言うま
でもないことです。港区です。これは港区の慶応大学の三
田のすぐ近くに、港区郷土資料館というのがござい
ます。港区ですから、郷土資料館っていうと、ええと思
うんです。港区は江戸時代辺りからずっと大名屋敷で
した。

港区のだいたい1人当たり平均所得は1,000万を超
えております。港区は昼間の夜の人口の4倍近く跳ね上
がります。だいたい国籍は10%近くは外国の方だと思
います。ほとんどアメリカ大使館をはじめ、大使館はここ
にほとんどあります。NHKを除くと民放のキー局は全部こ
こにある。ほとんどそうです。TBSの赤坂、お台場の
フジ、フジテレビですね、8チャンネル。それから、テレ
朝も六本木ですから、東京もそうですね。世界有数の
大企業がここに集まっています。ですから、大企業及び大
使館、公使館の私邸を含めた人々がだいたい10%、外
国国籍です。

こういう所は世界中探してもありません。私が生まれ
たいと思うならば、やっぱり麻布辺りで三代目の総合病
院を持って、そして、代々慶応大学医学部で、四代目も

幼稚舎に入り、そして、一生懸命頑張って東大なんか入るよりは、高校時代にアメリカ辺りに留学をして、そして、あるいは、ケンブリッジかオックスフォードの近くのイートンのそういう所に入って、あとはもうスルスルと慶応大学の医学部を出てという。そこに生まれたいと思うのはこれは人情なんじゃないかと思うんですね。

よりによってどうして球磨村に生まれただろうと。もちろん球磨村は私はいい所だと思います。そこを宣伝しながらいろんなところに行っているんですが、実際はやっぱり所得水準に5倍近くの違いがあると、普通、これは外国と言うわけですね。そう言います、普通は。

私も理科大で教えて非常に面白かったのは、東京理科大学の8割近くは関東圏です。東京工業大学ももう9割は行ってないにしても八十何%そうです。東京大学は約6割だと思います。

つまり、東京大学に球磨村で生まれた青年は入れない。昔はそれがあったわけですね。田舎で、しかし、ものすごく秀才がいる。そういう人たちが、熊本であれば旧制第五高等学校、旧制第五高等学校、今の熊大です。佐藤栄作さん、池田勇人さん、大平正芳さん、そして、右翼の巨魁の大川周明、そして、極左でならした、これは向坂逸郎さんとか、あるいは、東大教授の大内兵衛さんとか。漱石がそのときは3年近く、3年以上、教鞭を執ってる。

そういうような所から、いわば、1校だけじゃなくて、あの時代は6校、7校もあったと思いますけども、そこからやっぱり地方のいい人材が東京に集まってくる。亡くなった司馬遼太郎さんは、帝都、東京は日本の配電盤だと、そこに電流が集まる。電流が集まるということは俊英が集まる。俊英はやっぱり貧しい人もいます。しかし、そこにとにかく素晴らしい人材を押し上げようというので、いろいろ地方が頑張る。

あるいは、あの当時でいうと、さまざまな社会的に手を差し伸べてくれる人がいる。大平さんなんかはほんと貧しかったと思います。大平さんは東大ではなくて、現在の一橋だったんでしょうかね。東京商科大学になります。それでも、そういうことですね。

ところが、今は東大は6割です。早稲田、慶応もだ

いたい8割近くです。つまり、今は学生を見ていると、いわばモビリティというか移動ができてないわけです。東京にいると分からないんですね、地方がどうなってるか。せいぜい福岡は今、人口が増えてますから。でも、それ以外は分からない。そういうこの学生のグローバル化といわれながら、日本をよく知らない。日本をよく知らないまま関東圏だけを移動している。そうすると、みんな金太郎飴みたいに同じなんです、見ると。

だいたい親の年収、生活の背景。私も東大に20年以上いましたが、最初教えたときは学生に手を挙げさせたんですね。親が2人が四年制大学を出てるか、あるいは、どちらかが四年制大学を出てるか、あるいは、お母さんが短大か、あるいは、四年制大学を出てないか。20年前であれば、東大に来る学生でも親が四年制大学を出てない子が結構いました。今手を挙げさせると、ほぼ間違いなく四年制大学出て、東大の場合は、年収1,000万以上ってというのがだいたいの相場になってるわけですね。こういう現状に日本がある。

日本という国は、世界に冠たるもので、要するに、階級間格差がない。これに近いのはドイツだと思います。フランスに行っても、イギリスに行っても、アメリカは別ですが、日本ほど学歴によって化けられる、たとえどんなに差別があっても、学歴というフィルターを通れば、そこである程度自分がやりたい職業や、あるいは、ステータスに就くことができる。これを可能にしたっていうのは大変なことだと、これは大変なことですね。戦後の高度成長期の最もいい部分はそのところにある。

例えば、イギリスの場合であると、オックスフォード、ケンブリッジに行く場合、高校はイートンとかある程度恵まれた所です。ですから、英語が違います。マーガレット・サッチャーなんか、どちらかっていうと低い階層の出だったんですけど、だからこそエレガントなクイズイングリッシュを使おうとする。

そして、労働者階級はだいたいサッカーである。ノーブルな人たちはクリケットをやったり、皆さんもオーストラリア行って、クリケット、これ何が面白いんだろうと、1日かけてこんなことやって、野球やってたほうがよっぽど面白いじゃないの。しかも、これを1週間もやってるわ

けですね。間はお茶を飲んで。何やってるんだろう。でも、これで盛り上がってる。それは間違いなく、ある程度のいわばクラスの上の人たちのスポーツ文化で、はっきりと分かれてるわけ。そういうものがないのが日本のよさ。ですから、あるときは日本はやっぱり8割からそれ以上9割方、中流ということが、この分厚い中流っていうのが作られて、これも大変なことだったと。

よくいうんですが、人口5,000万以上で、1人当たり、今のドル計算で、GDP3万ドル、これどこにあるかっていうと、アメリカを除くと、日本だけなんです。1億、人口あって。ドイツ8,000万、イギリスだってフランスだってせいぜい6,000万ぐらいでしょう。そう考えると、1億2,000万の人口がいて、もちろんリヒテンシュタインとかベルギーとかオランダは、これは1人当たりGDPは日本より高い。しかし、1億2,000万の人口ですから、これは桁外れ。

今、中国がたとえ日本の人口の10倍以上あって、それで日本よりもGDP全体としては上であっても、それは内陸部に行けば、原始的な生活に近い状況も一方ではある。そういう点では、1億2,000万の人が37万平方メートルのこの日本列島に、1人当たり、今申し上げたようなGDPを持って生きられるっていうのは、これはやっぱり大変なことですね。

これを成し遂げた。それはどうして可能だったのかというと、私は、明治150年のこれもありますけど、本当は江戸期、だいたい幕末期に日本寺子屋は何万件あったと思うんです。これは数え切れない。ですから、19世紀の半ばの日本のリテラシーは世界有数だということを言う人もいます。それぐらい言ってみれば、極端な天才ではなくて、アベレージの人にリテラシーを与えるという点では、日本はかなり成功したというか、大変なものをもたらした。

ですから、だいたい皆さんも海外行けると分かるでしょう。会計を、それで、お金、例えば、1ドルをあげる。そうすると、35セントお釣りが来る。すっと暗算でやれる所はあんまりなかったんじゃないかと。アメリカの中西部辺りいると、分からない。場合によっては、電卓でやってる。日本の場合だと、キオスク行けば1ドル出して、

そして、すぐに返ってくるってぐらいですね。それはそろばんと読み書きが江戸期の後期からやっぱりあった。

そういう日本は、だいたい極端な貧困ということについて、どちらかというと、社会的に見れば、この150年間、なんとかそれをならしてこようとしたわけですね。特に高度成長期にこれは成功した。皆さんと私も団塊の世代、もしくは、私は団塊の世代より1つ下ですけども、この世代を考えていくと、やっぱりだいたい中流という。それがだんだん変わっていくということですね。

なぜ貧困が今、大きなテーマなのかというと、1つはやっぱり人口が減ってるということ。人口が減ってる中で貧困ということが出てきているということが1つあります。しかもそれが少子高齢化ですから、高齢化社会になるんですよね。

でも、驚くべきこと■なの■。皆さん、幕末期の日本の人口はだいたい3,000万です。明治の初期が3,500万。そうしますと、日本は150年間で3倍増えたということになる。これはイギリスとフランスと比べても桁外れです。だいたい今から150年前のイギリスとフランスと現在の人口を比べますと、せいぜい1.6倍ぐらいです。3倍も増えたっていうのは、アメリカ合衆国を除くと、かなりドイツに近い、それでも2倍ちょっとです、ドイツは。ということは、先進国、G7の中で、日本はこの150年で人口を3倍にしたということ。

明治時代3,500万から3倍も増えた。先の大戦もあったにしても増えた。それが確実に今、少子高齢化へと向かおうとする。西暦でいいますと、1980年を1に取ると、2050年の日本の人口は、それと比べると0.9以下になっている。ドイツが0.96ぐらいでしょう。1を上回ってるのは、フランスぐらいです。なぜか。フランスは事実婚を認めています。日本の場合は、民法上、婚姻関係、これを届け出をしてしっかりと正式に、つまり、事実婚というのは認めない。フランスの場合は、それをやりましたから出生率は増えてるわけ。

人口を増やすためには、やっぱり経済的な問題だけではなく、これは民法の改正をしなければいけない。でも、民法の改正っていうのはやっぱり伝統があるわけですね。それぞれ家族構成をどうするのか。戸籍もありま

すし、そして、それぞれの親子関係等々も含めて、家族というものは、これはなかなかそう簡単には変えられない。フランスならではのことでしょ。

ただ、いずれにせよ、間違いなく日本は3倍の増えた人口の中で、確実に今から人口が減っていく。これに対応するときに重要なこと、それはやっぱりデフレが進んでいるということですね。だいたい人口が増え、成長がある程度右肩上がりのときは、これは当然インフレ状態です。インフレをある程度加味しながら経済成長■と■。これはもう人口増大、成長、インフレっていうのは、ある種つながってるわけですね。ところが、今、縮んでいます。縮んでるイメージがある、■日本には■。そして、なおかつ、デフレになっている。そして、成長がやっぱり落ちこちていく。

こういう時代を、普通は太宰治的状况っていうわけですね。その心は斜陽というんですね。でも、私は斜陽が悪いんだろうかと。このイギリスを見ていただきたい。なるほど。ブregジットになって大変です。今後どうなるか分かりません。ただ、イギリスの年間所得、スコットランドの分離独立問題があるにしても、イギリスは世界に冠たるイギリスです。

そして、ユーラシア大陸を挟んで、日本とイギリスが島国として東と西にある。今の皇室の方々も、天皇陛下も含めて留学される場所は大陸ではなくイギリスです。非常に似通っている。

皆さん、どうですか。周りでメイド・イン・イングランドってありますか。ないですよ。ジャガーだってタタに売られている。これはもうほとんど外国の企業になってるわけですね。じゃあ、紅茶があるか。紅茶はやっぱり外国から持ってくる物。

唯一は、それはもう言うまでもなく英語ですね。英語がある。そして、それ意外に何があるか。ロンドンにシティがある。金融と保険で、サービス業でイギリスは十分やれる。豊かな国です、今もって。そして、一生懸命は音楽でも、さまざまな文化でもやっぱりリーディングセクターにいる。日本も最近、ほんとに若者がスポーツや文化のレベルで活躍するようになってきている。

そう考えると、私はまず1つ言えることは、貧困の間

題を考えていく前に、なだらかに斜陽かしていくことを恐れる必要はない。今、中国と競争すると言うんだったら、これは極端に生活水準を低くしないと。中国がやっぱり逆立ちしても日本に追いつけない、日本のマチュアな文化、付加価値っていうのはあるわけですね。そして、一人一人の教育水準が高い。やっぱり日本は人を育てる、人が最大の資本であるという考え方。これは成功したからこそ今ここにあるわけ。

そういうふうと考えていくと、貧困の問題を考えていくときに、確かに日本は少子高齢化が進み、そして、サイクルがピークから少しなだらかな下山へと向かっている。これをイギリスのように楽しみながら、そして、日本のハイカルチャーを世界に伝えていく、こういうような基本的なあり方が一番望ましい。その上で、貧困ということを少し考えていきたいですね。

貧困を考えていくときに、非常にマクロな視点がまず必要です。なぜか。貧困とは何かというのがよく分からないということです。貧困の定義は非常に難しいです。何を持って貧困と言うのか。これがまず1つある。

2番目、貧困が見えにくいということ。日本に住んでて貧困と言うとピンとこない。そうだと思います。日本にいて、われわれは貧困という言葉がスッと頭に入らない。皆さんがヨーロッパに行かれると、フランスなんかはホームレスの物乞いの人がパリでも結構います。ドイツはさすがに少ないですけども、ほかのヨーロッパ諸国に行くと、夕方、お母さんとお母さんを抱いた子どもが結構物乞いをしてる光景に出会う。つまり、女性の貧困は結構ある。これはルーマニアやブルガリアのような、あるいは、アルメニアも含めて東欧諸国から流れてきている人たちもいる。

日本で、皆さん、公共交通機関や地下鉄に乗っても、まず女性が物乞いをしてるなんていうことはまず見ることはない。もしそういうことを見ると、ああと思うと思うんです。そうすると、貧困と言われても分からないわけですね。ここが1つ、大きなネック。ただ、OECD諸国の中で日本の子どもの貧困率は、確か2015年レベルだったでしょうか。13.3%、6から9ぐらいだった。決して低くはありません。OECD諸国の中で、つまり、7

人に1人が貧困だという。

この貧困というのは、何を持って貧困というのか。これはもういろんな定義がある。絶対的貧困は、さすがに日本にはほとんどない。絶対的貧困というのは、WHOが定めている人間に必要なヒューマンビーイングとしての生存に必要なカロリー計算からある程度割り出される。そんなことはさすがにない。

しかしながら、相対的貧困はある。例えば、子どもたちでも修学旅行に行けない。卒業式に、あるいは、どこかで銀座だったでしょうか。アルマーニもいいんじゃないかという公立の学校が、それは銀座であればと思うんですけども。いずれにせよ、私も埼玉にいて先生方と話をして、やっぱり修学旅行に行けない。それから、学校での必要なさまざまなものが払えない。それから、学校に通うときの靴が、どうしても欲しいのに1足しかない。それをなんとか人に目立たないようにして通う。こういう子どもがいると言われています。

それから、貧困の子どもの最大の疾患の1つは虫歯です。なぜかっていうと、たとえ両親共働きでいくつか兼ねて仕事をしてる場合、子どもたちをそのまま置いておくためにはお菓子を与える。どうしてもやっぱり甘い物等々を親がいない所にかじってるわけですから、どうしてもこれは歯槽膿漏や、あるいは、歯にそういうさまざまな疾患が出てくるといわれている。こういうふうにして、貧困とは何なのか、貧困が見えにくい。同時に、貧困の原因についてもいろんな見方があるわけです。

貧困は本人の責任だ。つまり、親の責任だ。親が頑張っていない。親が頑張っていないからこうなったんだ。頑張れ。人は頑張れば何とかなるんだ。こういうセルフ・メイド・マンというか、これはアメリカのベンジャミン・フランクリン以来、あるわけですね。これはある人は資本主義のスピリットと言う人もいます。自分たちは頑張る。だからこそ、アメリカは、どちらかというと、ヨーロッパと違って国の公に頼らない。自分たちでやる。これはやっぱりアメリカの強さでもありますね。

しかし、同時にそれは貧困を生み出していく、もしくは、貧困があってもなかなか手を差し伸べられない。だから、ロータリークラブやライオンズクラブや、アメリカ合衆国



にはたくさんの教会もあります。アメリカに行けば、教会によって救われる人がいっぱいいる。

そして、何よりもアメリカはチャリティーがすごいんですね。これはマイクロソフトのあの方も、それから、Facebookのオーナーもやっぱり大変なチャリティーをする。これは税制の問題もあると思います。私も熊本県立劇場を預かって、熊本県の有力者からさまざまな寄付が欲しい。そういうときも税制の問題をしっかりとやってくれないと、企業側としては困るとよく言われるんですね。ですから、そういうチャリティーが生きるといえるようなアメリカのような社会にしていくためには、税制改革もそれに伴わなければいけない。

ただ、いずれにせよ、日本の場合は、これまでだいたいみんな同じだと言われる。そんなに極端なことはない。確かにそうなんです。日本は今、格差が開いているとはいえ、アメリカとヨーロッパの間ぐらいです。ですから、まだまだアメリカほど格差が開いているわけではない。

しかし、確実に13.3%の子どもの貧困があることは間違いない。そして、就業人口の約15%がいわゆるアンダークラスといわれています。これはさまざまな雑業に従事している非正規雇用の方々ですね。これがだいたい186万以下。ですから、これ186万といいますが、結婚をして子どもを育てるとなると、これはなかなか大変です。そういう方々が15%近く就業人口の中で占めてるといことなんですね。これもまた現実■なんです■。

そういう中で、貧困ということをおのま置いとくと、

何が問題か。どんな社会にも貧困はありました。どんな社会も格差はあります。日本ほど自由主義的な資本主義社会で格差をできるだけ縮めたことに成功した社会はないと思います。国民皆保険一つとっても、これは世界に冠たるものですね。■だって■、それでもやっぱり起きている。

これがずーっと広がる。何が問題なのか。それは格差が固定化されるということ。格差が固定化されると、自由競争が働かなくなる。例えば、例えばの話です。緑区の公立の小学校、中学校があるとします。そこに子どもたちが通う。ある子どもは、お父さんとお母さんが共働きで歯科医をやってらっしゃる。そこで、子どもには習い事も小さい頃から英語教育もやろう。そして、場合によっては、夏休みを利用してハワイ辺り行ってみようじゃないか。世界に見聞を広げてほしい。そういう子どもが通ってる。

もう1人は、お父さんとお母さんが共働きだけでも、やっぱり所得水準が200万以下、そうすると、自分もきょうだいの面倒を見なきゃいけない。お父さん、お母さんはほとんど子どもを習い事、塾に通わせる能力もない。この2人が同じ学校に通って、小学校、中学校まで同じ公立学校に通った場合に、学歴格差、これは確実に出てくるわけですね。学力です。

これはもうデータが出ています。データが出ています。詳しいデータ。つまり、学力の格差は家庭によって変わってくる。家庭によって変わってくる。どういう家族で生まれたかによって変わってくる。

昔は高度成長期は、親が中卒でもほんと金の卵で熊本、鹿児島から大田区に出てきて、一生懸命頑張って町工場に働いて社長さんになる。苦しいかもしれないけど、社長さんになる。フーテンの寅さんのタコ社長ですね。まさしくああいう。それで頑張っていける。中卒でも。その代わり、自分の息子、娘は大学、そして、いい学歴を積んでいい会社に入ってほしい。それ、可能だった。親よりもいいキャリアを付けられる。だから、みんな頑張る。そういう時代だったわけですね。

ところが、今、飽和状態です。これは2人に1人は大学生ですから、飽和状態、そういう中で、今起きたよ

うな学力格差が起きてるわけですね。ですから、日本は約、戦後70年たって、第三世代から第四世代になってると思います。私のように、えっちらこっちら熊本辺りから出てきて、東京で何とか基盤を作って、その次の世代ができて、その次の世代がまたその次の世代を生み出している。

ですから、たぶん緑区にも、そういうような方々が、結構、三代目、四代目っていらっしゃるかもしれない。ほとんど横浜以外で生まれて、学歴も高校まではそこで、そして、関東圏に来た。そうしますと、関東圏に学歴と所得水準の高い人々がそこに集中する。しかし、間違いなく問題は貧しくても次を狙えるというふうにしておかな■きゃいい■。貧しくても、親は貧しくても、子どもが頑張ればやれるんだよと。

ところが、残念なことなんです、東大を出ても、やっと優良企業に就職しても、最初の年から250万の奨学金を返さなきゃいけない。アメリカは大変な国です。ハーバード辺りだと、4年間で数千万になると。それを就職できないから、やっぱり払っていかなきゃいけない。そういう学生が出てきてるわけですね。さすがに日本はそこまででは。しかし、前よりも奨学金、これは日本育英会も含めて、やっぱりこのロータリークラブや、あるいは、それ以外のさまざまなチャリティーによって成り立つ奨学金があるだけでも、学生はほんとに助かるわけですね。

そういう点で、私は何が問題かという、貧困や格差自体は問題ではない。どんな社会にもある。資本主義社会である以上。でも、それが格差が固定化されて、ゲームが、やっぱりそのゲームのプレイヤーが、悪い言い方をすると、蛙の子は蛙になっちゃうということですね。やっぱり親子鷹じゃないんですけども、鷹が鷹を生む、これがみんなできるかもしれないという可能性を、日本はあの高度成長期に作った■わけ■。だから、俺も私もやれる。そういうふうになった。

ところが、それが固定化されてきますと、しょせん蛙は蛙じゃないかと、こういうふうになってしまうところが、一番やっぱり日本の社会にとって、これが続いていきますと、特に就職氷河期に、あの時代、非正規雇用になった人々が65歳を迎えたときにどうなるかということですよ

ね。この人たちを支えるとなると、大変な損失です。何兆円規模になる。つまり、貧困をそのまま放置しておくことは、未来の負担が増える。日本にとって損失なわけですね。ですから、何とかやっばりとりわけ次世代に貧困の連鎖を残さないようにしていかなきゃいけない。これが今、非常に日本に課されている喫緊の関心事なわけですね。

これは、私も熊本に行くと、熊本県も地震でやっばり人口は減ってます。ほとんど九州で人口が増えているのは博多ぐらい。よく熊本の人と言うんです。博多には負けとるけんねって。うちら負けとるばいと。もう博多、独り勝ちたいと言うんです。それぐらい博多には人口がまあまあ増えてるんです。

ご案内の通り、博多は、つまり、福岡市は、これは神戸市を人口で抜きました。私たちの学生時代、横浜と神戸は、これは日本の二大国際都市、横浜か神戸か、神戸か横浜かと言われた。何よりもとにかく、ハイカラ、開かれています。こういうようなイメージだったんですが、今、私も神戸に呼ばれて何回か行きますが、もう圧倒的に横浜市の手相手にはならない。都市の規模が違います。福岡にもう抜かれてるわけ、人口において。

これは、95年の阪神淡路大震災以来、どうしても兵庫県はやっぱり取り残されてるんですね。その間、横浜市はこれだけ大きくなる。そういうようなこの大都市圏でも、大阪府はもうやっぱり人口が。東京も、これは去年の段階で見ると、実は4%近く人口は増えてるんですが、伸び率は2分の1になってるんです。その前年度に比べると、今2%ちょっとぐらい。しかも、豊島区は、これは消滅可能都市の1つに挙げられてるんですね、池袋が。つまり、大都市圏の中にもこのままいくと、若年の就業労働人口は減っていく可能性がある。こういうようなデータも出てます。

それを考えていきますと、緑区はたぶんかなり過ごしやすい。先ほど区長さんの話でも緑区というぐらいですから、本当に環境がよくて、やっぱり人々がベッドタウンとして住みたいという場所ではないかと■思う■。こういうこの緑区の中で、少しでも貧困をなくしていく、そのためにどうしたらいいのか。つまり、大きい話ですけども、

われわれがやれることは小さなことしかできません。でも、先ほどあった通り、世界に対していいことをしようと、これはとても大切なことですね。

じゃあ、どういうことをしたらいいのか。大きい話をすれば、普通はこれは貧困をなくしていくためには、所得の再配分をやればいい。それは、税の問題になってくる。でも、残念なことに、日本はもう天文学的な財政負担を抱えてるわけです。地方と国を含めてですね。もちろん世界に冠たる第3位の経済大国ですから、海外資産もまたはそれを上回るぐらいあるといわれています。あると言われてても、相殺しなければならないぐらいに財政赤字を抱えてる。今後、国や自治体だけになかなか頼れない。じゃあ、どうしたらいいのかということなわけですね。

私、たまに熊本でも地方に呼ばれるときに、浄土真宗が結構多いんですね。今日取り上げられてる東日本大震災の所は、どちらかというと、禅宗系のお寺が多いんです。ただ、西日本は浄土真宗、東と西が結構強い。今はお寺をどうするか。お寺を役割を変えて、お寺がただ葬式仏教だけではなく、学習で落ちこぼれている子どもたちを拾ってあげる。普通だったら貧困の家庭だったら塾に通えない。家庭教師も雇えない場合に、お寺に行けば学習ができる。こういうことをボランティアでやろうとか、それから、お寺がカルチャーセンターになる。これは当たり前なことなんです。

ヨーロッパ中世もほとんど教会が、いわば今の学校の半分近くを担っていたわけ。ヨーロッパの有数な学者やいろんな人々は学校に通ってません。ほとんどが家庭教育です。驚くべきことに、それができたのはだいたい19世紀の半ばぐらいからです。ほとんどが家庭教育と教会です。

日本もお寺がそれを担ってたわけ。もう一方で、神社もそうかもしれません。中世社会はお上だけに頼ってはいられなかった。そうすると、そういう教会や、日本という、お寺さん、神社仏閣をその役割を果たしてる。でも、明治になって廃仏毀釈があり、統廃合があり、やがてお寺は檀家によって成り立つ宗教法人になってしまった。そうすると、経営本意にならざるをえない。

もう1回、お寺を見直して、檀家以外の方にもそこに集まっていたら、こういう場にしていこうという動きは、一方であります。これは東日本大震災を契機に、浄土真宗は相当な人を送り出していきましたから、自治体でやれってことは限界があるんですね。民間とボランティア団体が、あるいは、そういう宗教団体含めて、動いていかなきゃいけない。

アメリカ合衆国には、その伝統があるわけ。アメリカという国の強さはどこにあるか。それは常に新しい人口が外から来る。先進国の中で人口が増えているのはアメリカだけで、もちろんトランプさんになっているいろいろ問題あるかもしれませんが、それでもアメリカは外から人が来る。そして、アメリカはやはり中間集団が生きてるわけですね。こういうロータリークラブから何々クラブ、アソシエーション、そして、何々チャーチ、こういうものがいっぱいある。だから、いわばヨーロッパの社会民主主義的な公が介入して痛い所に手が届く、あるいは、所得再配分をやっていく、こういうことの伝統はアメリカにはない。

アメリカでリベラルってというのは、それを指してるわけ。オバマさんの■ような■。それは社会が貧困、こういう人たちに手を差し伸べていこう、ガバメントが、政府が■すぐ■動く前に。そういうようなものがこのロータリークラブにも生かされていると思うんですね。ところが、日本の場合は、なかなか今まで、親方日の丸っていう考え方も強かったですし、国の皆保険制度もあるし、国や自治体に頼っていくということが強い。

私、先ほど紹介した、福岡県のこの辺りの地区は、実は自治体に頼らない、やっぱり商人の町なんですね。商人や自立的なこういうロータリークラブのようなのがいっぱいあるんです。そういうところがいろいろな活動を積極的にやってる。だから、公だけに文句はあまり言わない。そういうところは、やっぱりそれなりの活動が盛んなわけですね。なかなか今、そういうところにスイッチしていくというのが難しい。今まで何かあれば公に頼めばいいという、そういうとこでずーっと来ていましたから、私はやっぱり震災で初めて日本は、絆ということをもう1回再確認した。そして、民間が強い社会がやっぱり強い国なんだと。



これは福沢諭吉の言葉を使えば、「一身独立して一国独立す」という有名な言葉がある。「一身独立」というのは、自分が独立すると同時に、社会がその独立を助ける。そして、同時に社会に対して個人も手を差し伸べる。こういうようなことですね。

そういうところがロータリークラブの根幹にあると思うんです。ただただ弱い人や貧しい人に手を差し伸べるだけではない。その人たちが自立していくためにも、そのために必要なものを手を差し伸べる。ただ単に手を差し伸べれば、これはやっぱり遊民惰眠というものを作り出すだけだという考え方もある。そういうような考え方が、やっと震災を契機に、日本の社会にも浸透してきた。

ただ、私、今、長野県の追分、それから、軽井沢でも、これは沓掛という、今までは中軽井沢といわれますけれども、あの辺りに住んでいるんです。旧軽に行くと、従来通り、ほんとにハイソな人たちがいる。そこは縁もゆかりもないんですけども、それでもやっぱり別荘やある程度所得水準の高い人以外の人たちが、結構貧困がある。

私の家族も、実はフードバンクの作業をちょっとやりましたけども、非常にいいことに、このフードバンクは、賞味期限を過ぎただけでもマーケットには置かないようにしている。食品関連っていうのは、これはお客さんの口に入るわけですから、賞味期限が1日切れただけでも消費者からクレムが付けば大変なことになる。

賞味期限の物をフードバンクに出して、そして、貧困の人がそこから必要な物をもらうというようなことは、これ

は欧米でも結構やられてるんです。イギリスでもたくさん ■あります■。ところが、どうしてもこれは仕方ない面もあると思うんです。皆さんの中に、スーパーマーケットのオーナーであって、賞味期限の食品をフードバンクに ■出す■、もし食あたりでも起こしたらどうするんだろうか。それだけで風評被害に遭わ ■ざるを得ない■。そうすると、食品関連の小売業はやっぱり二の足を踏んでしまう。

そういう中で、非常にありがたいことに、これは旧軽井沢に近い所に、音羽の森という所があります。これは老舗のホテルですね。その社長さんはそれを引き受けてらっしゃるわけ。このフードバンクの賞味期限の物を集めて、そして、それをもう1回、今度はフードバンクという形で、ボランティアの方々を含めて必要な人に配っていくという。そこでは、トイレトペーパーからキッチンタオルから生活必需品、女性に必要な生理品も含めてやっぱり必要なですね。そういう物も含めて、口に入れる物で安全な物。これはやっぱり限られていきます。缶詰とか長期保存が可能な物。2年ぐらい持つようなレトルトとか。こういう物を一つ一つ分別してやってらっしゃる。

私も本当にこれはそれを聞いて頭が下がる思いで、この音羽の森の社長さんはある1つのポリシーがおありになるんじゃないかと思えます。

そういうようなフードバンクには、これはトイレトペーパーからキッチンタオルからティッシュペーパーから生理品から、それから、文房具。これはもうあまり賞味期限、その他関係ないですから、こういう物をなんとか必要な方々に。

ただ、それをデリバリーする場所が難しい。また、そこに来ること自体が恥ずかしい。これはお分かりになりますよね。自分が貧困世帯に育った場合、そうすると、親御さんが自分が子どもと一緒にあってそこに行くというのは、なかなかやっぱり気が引ける。

そのためにはどうしたらいいか。つまり、困ってる人も困ってない人も一緒に来れるようにする。そして、輪を広げて、その中で困ってる人が、紛れてというわけじゃないんですけど、必需品をもらっていくと。だから、必要な人たちだけに回らないかもしれないけど、それでもいい。貧しい方は、何月何日この場所でこんなことをやり

ますから来てくださいと言うと、あまり来ないというんですね。善意で集めたのに、それが無駄になってしまう。一生懸命頑張った。でも、来ない。こういうことが起きる ■わけ■。

それは日本の社会には、貧しいということに対する恥がある。外見が悪い気持ちは持つてるわけですね。だから、なかなか貧しいイコール恥だ。そうすると、声を上げられない。そして、フードバンクがあっても、そこに来れない。そのためには、やっぱり工夫が必要なわけ。そうでない人も含めて、共同体の中で、緑区でいろんな方々が手を差し伸べて、そこで、緑区は、ああ本当にコミュニティがあるなど。新住民がこんなに増えても、やっぱり私たちは緑区に住んでよかった。こういうような、地域住民がみんなのコミュニケーションの場所、そして、音楽をしたり、演奏会をやったり、こんな形で何とか人集めを今、やってるんです。

もう1つ、大切なものは、これは子ども食堂ですね。これも難しいんですね。子ども食堂でカレーライス作った。さあ、じゃあ、そういう子どもたち来てくださいと言うと、腹を空かしてんのに来れない。親も来れない。だから、最初やったときは、人が来なかった。でも、やがて何とか貧困世帯を見つけ出して、そして、その人たちとそうでない人が一緒になって和気あいあいとやっていく。

ですから、これは音羽の森は確かコックさんが来て、料理を学ぶ。料理を学ぶっていうことであれば、貧困、貧困でない人も関わらない。家庭料理でみんなが作れる物を作りましょう、持ち合わせで。そこで何とか貧困の人を、そこで親子一緒になって、みんなでわいわい言いながら、それで、コミュニティの輪が広がっていく。

結局、これからの日本はどういう社会になっていかなきゃいけないのか。これはヒューマンキャピタルっていうわけじゃないんですけど、人的な結び付きというものが支えになって安心感につながる。これが重要だと思うんですね。

お隣さんが何をやってるか分からん。これは本当に言うのも恥ずかしいっていうか、気分が悪くなりますけど、神奈川県のある所であんな無残なことがアパートであ

る。やっぱりお隣さん、何やってるか分からん。マンションが建てば、必然的にそういうふうにならざるを得ない。

こういう中で、この地域ではこういう人がいて、お互いにこんなふうに料理を作って楽しんでますよ。意外な人が意外な顔を持ってたりする。こういうことをやっていくということが大切なんだ。そのことによって、高齢世帯も万が一のことがあってもお隣さんがそれに気付く。こんなことになっていかなければいけない。

日本は何が一番変わったか、戦後。私、やっぱり家族だと思えますよ。われわれの世代は、「ただいま11人」とか、もう年齢が分かっちゃうんですが、「七人の孫」とか、だいたいホームドラマは食卓を映せば成り立ってたわけです。「寺内貫太郎一家」とかですね。これでだいたい分かる。

何が今進んだか。例えば、それこそすかいらーくのような、そういう所に行っても、四人家族でご飯食べるとき、みんなスマホ見てますよね、多くは。お父さんはゴルフのアプリで、あーっと、こう見てる。お母さんはほかの人とLINEでつながっている。息子は息子で何かゲームをしている。娘は娘で中学生の、そして、料理が運ばれてくる。みんなやっていることは違う。こんなことはわれわれの若いときっていうか、少なくとも私が40代ぐらい、50代の初めまであり得なかったわけですね。四人家族で外食をするならおしゃべりがある。4人がわいわい言いながら食べている。今は恋人同士で横にいても携帯で話してるという、驚くべきことが起きているわけ。ですから、いじめがあっても、これ、親でも分からないと思えますよ。誰と誰がつながってるか。

こんな時代になった、核家族化とよく一言で言いますが、それは四人標準世帯であってもバラバラになっちゃった。こういうような家族が地域社会の中でコミュニティを形成していかなければいけない。その中で貧困という問題を考えていくということですね。ただ、貧困だけ取り上げて、困った人に上から目線で恵んであげるんだ。これが貧困対策と考えると大間違いになってくるわけですね。

それは、核家族化した家族から、地域の中で家族は形作られていく。そして、地域への愛着が出てくる。そ

ういう一環の中に貧困の問題を考えていく。そうしないと、結局、自治体が大変な負担を背負ってしまう。最終的には、緑区が大変になると思う。あるいは、横浜市が。今後、公の財政も限られてくるわけですね。財政の硬直性もだんだん強くなっていく。国の財政自体もそうだと思います。

私も、同じ経済学者がいますけど、僕に、あの男、何て言うかっていうと、「いや、姜さん。われわれは年金食い逃げ世代だな」と。ほんとに忸怩たるものがあるんです。今の時代に、いろいろあったけども、われわれの世代はよかったかもしれんと。自分が一応は年金である程度は何とかやれるだろうと。でも、これから40年後、50年後、本当に今のような形での就労世代が年金世代を、つまり、分母がどんどんどんどん小さくなる。分子だけ大きくなっていく。こういうふうになると、その負担が大変になってくる。

これを緩和していくというのは、やっぱり私は市場経済とは違う、地域社会の持っている力というものは必要になってくる。そのためには、やっぱり地域社会の人間的な絆をしっかりと深めていかなきゃいけない。これが最大の保証なんです。最大の保険なんです。

これは東日本大震災行っても、熊本地震に行っても、みんな共通しています。皆さんもそうだったと思う。東日本大震災が起きたとき、私も東京いましたけど、ペットボトル1つ買えん。誰がどうしてくれたか。長野県から知り合いがワットと送ってくれました。そのつながりがあるから、それができた。日本は捨てたもんじゃない。そういうつながりを持つということ、空前のあのボランティアがあったわけですし、これ、阪神淡路大震災でボランティア元年と言われたわけ。

それはちょうど軌を一にして公だけに頼らない。そして、地域社会を強くしていく。強くしていくということは、みんなが無関心で自分だけよければいいというんじゃなくて、やっぱり地域コミュニティの力、お隣さんと一緒に生きていくことをやっていかないと、これから10年、20年先のことを考えると、なかなか希望が見えてこない。

そういう点では、この貧困は、これからの日本の社会を考え、また、日本の社会をよりよい地域社会にしていく、

1つの大きな試金石なわけですね。貧困が多ければ多いほど、またそれが連鎖すればするほど、社会の体力は落ちていくという。体力が落ちればどうなるか。自ずから犯罪も増えてくる。自ずから不安も大きくなっていく。

そういう点で、いろいろな意味で、貧困を地域社会から少しずつ少しずつ手を差し伸べて、最低限、生活必需品がそういうボランティアによってまかなわれるだけで違うと思います。それは大きく違うと思います。

やっぱりみんな生活にそれぞれが大変ですから、やれることは大きなことはできない。しかし、小さな善意が集まれば、それはそれとしてかなり大きい。貧困世帯の話の聞きますと、みんなそう言います。それは困ったときほど、近所、お隣さんの善意っていうのは骨身に沁みる。

そういうふうにして、私はこのロータリークラブや、あるいは、緑区にあるお寺や、あるいは、神社仏閣、それから、教会も含めて、そういうところが少しずつ、中間集団ですね、私の言葉で言うと。中間集団が生き生きとしてる社会こそ活力あるわけ。それはセーフティネットになるわけですね。セーフティネットがあるから、あまり不安を持たずにいろんなことができる。どうしてもそ

れがないと、人は先々のことは不安になる■わけ■。そして、自分だけのことを考えてしまう。

これは大きな問題は、そういうチャリティーやドネーションに関して、税制改革をどういうふうにしていくとか、それから、大学も含めて地域社会の中で、そういうさまざまな知恵を絞って、貧困を可能な限り地域社会から少なくしていく。そして、奨学金等々も含めていろいろ考えていかなければいけない。つまり、貧困は合わせ技でやっていかなきゃいけない。お金だけあれば解決するかっていうと、必ずしもそうではないですね。

そういうところを今後、この緑区の中でやっていていただいて、1つのロータリークラブが機関車になって、1つの緑区方式みたいなものを、もし作り上げていていただければ、いろんな所から見聞に来たり視察に来たりすると思いますし、そのためには、地区、地域の総合力が試されているということを皆さんに申し上げて、少し後の時間は私で答えられる、今日の話に限って、ご質問、ご意見頂ければいいと思いますので、私の話は一応これで、どうぞご清聴ありがとうございました。



第2部 アトラクション

■ コント青年団



東京都内の寄席演芸系芸人。青木イサム & 服部健治の爆笑コント。平成7年コンビ シリアルパパ結成。平成17年現コント青年団と改名。国立演芸場、横浜にぎわい座、木馬亭、新宿末広亭、浅草東洋館等で活躍中。

■ 桂 歌春



1949年生まれ。宮崎県出身の64歳。西南学院大在学中の70年 2代目桂枝太郎に弟子入り。師匠の死去により、桂歌丸門下に。85年真打昇進。86年国立演芸場花形若手演芸会 新人賞受賞。

閉会式

■ ガバナー講評

国際ロータリー第 2590 地区

ガバナー 湯川 孝則

ありがとうございました。私の■髪■もこんなぐら
いかなと思って■思いながら■(笑)。お疲れのところ、
最後までありがとうございました。関係者の方々、本
当にご苦労さまでございました。ご来賓の方々も。こ
んなにじっとお座敷席で座ってることなんかないん
じゃないかと思うぐらい、ありがとうございました。

ただいま姜先生の貧困の話のを伺いまして、私なん
かはシリア難民のどうしようもない絶対的貧困はただ
涙を流すだけでございますけれども、日本におきまし
て、例えば、修学旅行に行かれないと、進学できな
いと、そういう相対的貧困の方々に対しましては、わ
れわれロータリーは、何かそれ以上にお役に立てるこ
とがあるのではなかろうかと思ひながら話を聞かせて
いただきました。

それから、コント青年団でしたっけ、それから、桂
歌春様の生の落語、日本芸能を久しぶりに聞かせて



いただきました。結構いいもんだなと思ひまして、こ
れから暇がありまたら出かけていこうかなと思ひてお
ります。

本日は本当に皆さん、遅くまで遅くまで遅くまで来
ていただきました。これが本当のロータリーを愛する
の方々だと思ひておりますし、また、先に帰られた方もど
うしようもない用事でお帰り、後ろ髪を引かれながら
お帰りになられた方々ばかりだと確信をしております。

ほんとに今日は、どうもありがとうございました。関
係者の方々、ありがとうございました。ありがとう
ございました。

■ 閉会の言葉・点鐘

第 4 グループガバナー補佐

相沢 一夫

どうも皆さま、長時間にわたりましてお付き合い
いただき、ありがとうございます。また、ご来賓の方々
にも、長時間ありがとうございます。

今日は姜先生の講演、また、アトラクションとして
コントと落語ということで、盛りだくさんの内容で皆
さま、楽しませていただいたと思ひます。これを糧に
また明日からのロータリー活動をしていただけると幸
いです。

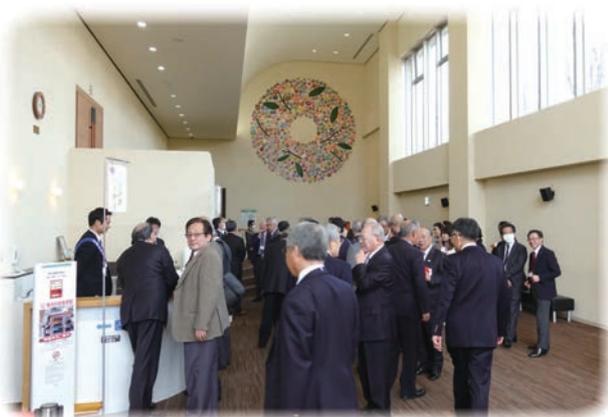
この企画をしていただきました、緑ロータリーの井
藤会長、並びに、武藤委員長をはじめ、緑ロータリー
クラブの皆さま、あとコ・ホストの横浜田園ロータ



リー、新横浜ロータリークラブの皆さま、ほんとにあ
りありがとうございました。

それでは、これを持ちまして、国際ロータリー第
2590 地区、2017-18 年度、第 4・第 5 グループ、インター
シティミーティングを閉会いたします。点鐘します。

■ 受付の様子、誘導の様子



開会式



開会式（続き）



第1部 基調講演／第2部 アトラクション／閉会式



懇親会



2017～2018年度 IM 実行委員会組織表

RI 第 2590 地区ガバナー	湯川 孝則 (横浜西 RC)
第 4 グループガバナー補佐	相沢 一夫 (横浜都筑 RC)
第 5 グループガバナー補佐	鶴岡 武 (横浜緑 RC)
RI 第 2590 地区幹事	倉地 恒久 (横浜西 RC)
RI 第 2590 地区副幹事	吉備 カヨ (横浜西 RC)

ホストクラブ・会長	井藤 昭宏 (横浜緑 RC)
ホストクラブ・会長エレクト	井上 幸治 (横浜緑 RC)
ホストクラブ・副会長	下中 英輝 (横浜緑 RC)
ホストクラブ・幹事	大野 富生 (横浜緑 RC)
I.M. 実行委員長	武藤 泰典 (横浜緑 RC)
I.M. 実行副委員長	北原 弘文 (横浜緑 RC)

企画委員会	◎井藤昭宏	○大野富生	井上幸治	北原弘文
	下中英輝	武藤泰典		
運営委員会	◎河原裕典	○小泉 豊	若山 誉	
会場委員会	◎舟橋金之介	○村松勇治	秋山光正	
登録・受付委員会	◎露木健造	○内倉和子	工藤公仁	清水保代
懇親委員会	◎齋藤清紀	○秋山光正	清水 巖	平田恵介
広報・記録委員会	◎浅井優子	○日向誓子	田中 孝	森 誠一
	若山 誉			
救護委員会	◎大地哲郎	○加藤喜夫	大野富生	
S.A.A.	◎小泉 豊	○河原裕典	秋山光正	
会 計	◎萬代昭彦	○清水裕之	清水保代	

国際ロータリー第 2590 地区
2017-2018 年度
第 4・第 5 グループ
INTERCITY MEETING 記録

発行日 2018 年 7 月 31 日
発行者 横浜緑ロータリークラブ
編集 INTERCITY MEETING 記録委員会
印刷 グランド印刷株式会社